

WINDOW



にぎやかなワールドキッチン

国際ふれあい広場2007
思い出の場面



ロス・トマテスによる楽しい演奏



大場久美子さんによる基調講演

2008
Spring
No.48

特集 ● 国際ふれあい広場2007

- 在住外国人のための南海地震対策
- 韓国の高校生がやってきた！
- Letters from abroad
国沢あや (サモア)
- 高知県国際交流員メッセージ「さらば高知」
宋 璐 (中国)
- 民間国際交流関係団体紹介
グアテマラ生産者支援ネットワーク「みるば」
- 高知県文化環境功労者表彰
 - 高知市立高知商業高等学校生徒会
 - 吉川浩史氏
- INFORMATION BOARD
KIA「20年度前半実施予定事業の紹介」
GENKI青年会の取り組み

在住外国人のための 南海地震対策



6カ国語パンフレット

昨年7月の災害時語学サポーター養成講座開催を皮切りに、19年度から本格的に動き出した在住外国人のための南海地震対策は、6カ国語（英語・中国語・韓国語(朝鮮語)・タガログ語・インドネシア語・ベトナム語）によるパンフレットとホームページ（HP）をこのほど完成させましたが、この2つの情報提供媒体に載せるべき具体的内容については、下で説明する「パンフレット等作成委員会」で検討・協議するなど、関係する方々から幅広く意見をいただきながら決めていきました。今回号では、2つの情報提供媒体の特徴や作成経過、20年度に予定する在住外国人のための南海地震対策についてご報告します。

パンフレット等作成委員会

この作成委員会は、災害時語学サポーター養成講座受講者、養成講座講師、県と高知市の国際交流員（CIR）に集まっていたが、主に情報提供媒体に載せるべき内容を決定することとグラ刷りの校正のため、昨年9月から今年2月にかけて計5回開催しました。委員会には述べ78人が参加し、以下のことを話し合いました。



第5回作成委員会(韓国語・朝鮮語)の様子

第1回(9月27日) 参加者15名	災害時要援護者としての外国人の特徴 統計資料から見た県内在住外国人の現状と推移予測 6カ国語で情報提供することの意義 提供情報を受け取る外国人の範囲 ローテクとハイテクで情報提供することの意義
第2回(10月18日) 参加者16名	平常時の提供情報と災害時の提供情報 各情報提供媒体に載せるべき情報 在住している人への情報提供・そうでない人への情報提供
第3回(11月10日) 参加者14名	パンフレット・HPに載せるべき情報 携帯用リーフレットに載せるべき情報 携帯サイトでの情報提供
第4回(11月29日) 参加者15名	パンフレット・HPに載せる情報の最終確認 携帯用リーフレットに載せる情報の最終確認 携帯サイトでの情報提供(再協議) パンフレット等の周知方法及び配布先

第5回については言語別に関し、主に校正用印刷物で訳文・レイアウトなどを細かく確認しました。

パンフレット・HPの特徴

- ・高知県発行の「南海地震に備えちよき!」・「南海地震から命を守るための7つのチェックリスト」をベースに減災対策に重点を置いた内容にしました。
- ・外国人を孤立させないよう日頃からの挨拶活動、地

域の防災活動・ボランティア活動への参加を促す内容を盛り込みました。

- ・最新情報（緊急地震速報）外国人が馴染みのない又は理解しにくいと思われる内容（防災週間、トリアージ、家屋の調査・判定）を明解に説明しました。
- ・HPでは、中国語については文字のほかに音声による情報を提供しました。（中国帰国者への配慮）



HPのイメージ(英語)

パブリックコメント

1月25日(金)から2月25日(月)までの1カ月間、校正段階のパンフレットを当協会HPに掲載し、一般県民から幅広く意見を聴取する仕組みを設定しました。

20年度の取り組み

20年度は以下の事業を関係者の協力を得ながら進めていき、在住外国人の自助・共助に向けた取り組みを支援する予定です。

- ・在住外国人対象の防災訓練の実施(場所:南国市)
- ・やさしい日本語によるパンフレット・HPの作成
- ・カードサイズの6カ国語版携帯用リーフレットの作成
- ・災害時語学サポーター養成講座の開催

韓国の高校生がやって来た！

韓国全羅南道光州市にある国際高校の生徒30名が、平成20年1月26日(土)から1月28日(月)にかけて明德義塾高校を訪問し、研修会館で日本人学生と寝食を共にしながらスポーツ交流や日本文化体験などをを行い、同世代の子どもたちとの交流を深めました。日韓両校の生徒の感想をご紹介します。



歓迎式(明德義塾高校研修会館)

異文化・言語交流の醍醐味

明德義塾高等学校2年 布垣貴将

今まで私は韓国の高校生と交流したことが無かったのでイメージをつかめないうまま交流会を迎えた。お互い言葉が通じないなりにゲームなどをして徐々に打ち溶け合っていた。このように言葉が通じない者同士で交流することはこれまでも多々あったが、毎回思うことは、「相手の話す言葉がわからないのにどうして理解し合えるのだろうか?」ということである。勿論細かなことまで理解できるわけではないが、大まかには不思議と通じ合ってしまう。実は交流会を行う前は自分自身とくに積極的なわけではないが、いつも不思議と後から楽しくなる。今回は3日間という非常に短い時間で十分な交流は出来なかったが、お互いに楽しい時間を過ごすことが出来たと思う。またこのような機会があれば、ぜひとも参加したい。

韓国国際高校との交流会で

明德義塾高等学校2年 増田ノン

今回の2泊3日の交流会で私は色々な経験ができました。この明德義塾ではたくさんの他国の生徒が通っているので初めて韓国の人と接したわけではありません。しかし、多人数と高知県のいろんな場所を観光し、夜はパーティのようにみんなで輪になって話すというのは初めての経験でした。最初は日本語も英語もあまり通じなくてお互いがジェスチャーしたり、日本語が話せる子に手伝ってもらったりと少しの会話だけでも、すごく時間がかかりました。でも、韓国の生徒はとても親しみがあって一日も経たない間に打ち解けていました。

韓国の生徒はたくさん日本の歌手やドラマを知っていて、とても話が盛り上がり、苦労することも有りませんでした。この交流会では言葉が通じなくても、人はそれぞれ仲良くなる、関わろうとする気持ちだけで、お互いを知ることが出来るのだと感じました。日常とは違った3日間は、楽しく充実した3日間だったと思います。

韓国・国際高校の生徒感想

明德義塾高校に到着するまでは、期待する反面、言葉が通じなくて意思疎通が難しいのではないかと心配していたが、今までもらったことのないような大きな拍手で迎えてくれたので安心した。部屋割りで隣の部屋に韓国からの留学生がいてくれることになり嬉しかったが、私たちは韓国の留学生に頼りすぎてあまり日本の生徒と喋らなかつた。そのため最初は、他の部屋の友だちは韓国の留学生がいなくても英語とジェスチャーを使ってどんどん仲良くなっていくのに、私たちはあまり親しくなれなかつた。しかし、日本の生徒と一緒にチームを組んで行ったバスケットボールとドッジボールを通じて結構仲良くなった。

いつも私たちに優しくしてくれたヒヨンスさん、私たちを笑わせてくれた津田…。そんな津田は最後まで私たちの期待を裏切らなかつた。もう一度機会があれば、ぜひ明德義塾高校に行きたい。



前列右から二人目(筆者)

(国際高等学校1年 ファン・サンヨン)

私は小学生の頃から日本に興味があったので、明德義塾高校との交流を楽しみにしていました。初めて対面した時、緊張のあまりぎこちない態度になりましたが、明德義塾高校の生徒のみんなが優しくしてくれて、夕飯がすんだ頃にはみんなでゲームをするくらい仲良くなりました。明德の生徒と一緒に日曜市を見学したり、プリクラを撮ったり、買い物をしたりするうちに“日本の学生も韓国と同じ”って感じました。

スポーツ交流ではバスケットボールをしました。韓国の高校では、体育や美術、音楽のような大学入試に直接関係しない科目は週に1時間ぐらいで、それよりも重要な国語、英語、数学、科学、社会などの科目を自習することが普通です。そのため、体育が上手くてできる日本の学生たちがすごく羨ましかったです。また、日本語の授業で明德義塾高校の外国人留学生にも会ったり、初体験の生け花も先生に助けてもらって最後にはなかなかいい作品を作ることができて嬉しかったです。



あふれる笑顔“ピース!”(左端が筆者)

最後の交流夕食会では、お互いに写真もたくさん撮りましたが、仲良くなったばかりなのにもう別れるのかと思うと、とても悲しかったです。短い間でしたが日本に来て、高知県に来て、そして明德義塾高校のみんなに会えて嬉しかったです。こんなにいい経験を与えてくださった明德義塾高校の先生と学生、そして国際高校の先生に心から感謝いたします。

(国際高等学校1年 ユン・ハンソル)

特集

国際ふれあい広場2007

平成19年度も県民に対する国際協力への理解を深め、国際ボランティア活動への参画のきっかけ作りとすることを目的に、10月13日(土)・14日(日)の2日間、高知市旭町の「ソーレ」(こうち男女共同参画センター)において「国際ふれあい広場2007」を開催しました。

13日の基調講演は、女優の大場久美子さんが講師を務めてくれましたが、苦手な飛行機に乗りはるばる東京から高知までお越しくださいました。それではまず、大場久美子さんの講演の様子を紹介したいと思います。

大場久美子さんの講演

芸能活動を続ける傍ら、大場さんがボランティア活動を始めることになったきっかけは次の2つの出会いでした。富山のデイケアハウス「このゆびとーまれ」の相馬さんとの出会いと、香川のNGO「セカンドハンド」の新田さんとの出会いです。



大場久美子さん

「このゆびとーまれ」は、障害のある人・ない人、子供・お年寄りが分け隔てなく誰でも利用できる施設です。創設者の一人、相馬さんは長年勤めた病院の高齢者の扱いに悩み、他2名とこのデイケアハウスを開設しました。お年寄りが子どもに声をかけた時表情は和らぎ、お年寄りは子どもに刺激され活動が活発になります。認知症のお年寄りは子どもとの触れ合いによって物忘れが改善され子どもの名前を覚えるようになりました。相馬さんの活動のある講演をとおして知った大場さんはその時深い感銘を受け、今でも時々施設に足を運んでいるそうです。

「セカンドハンド」の新田さんとの出会いは、大場さんがそれまで疑問を持っていた国際協力に対する見方を180度変えるものでした。新田さんから「自立支援」という全く新しい国際協力の理念を教わった大場さんは、現在、地元埼玉県川口市にある同NGOの支部でボランティアとして活動する傍ら、同NGOの活動を紹介するDVDのナレーションも務めています。



「セカンドハンド」のブースで

これからの大場さんは、彼女が経験した精神医療の分野で「セカンドハンド」が支援するカンボジアに心療内科の整備を進めていきたいという思いがあり、苦手な飛行機に乗ってでもいつかカンボジアの地を踏むことを目標にしています。約1時間20分の講演でしたが、最後に大場さんの好きな「世界に1つだけの花」(作詞：横原敬之)の詩を自ら朗読し、「まず理想を持つことから始まる、一人ひとりが力を出せば必ず夢はかなう、自分には力がなくても世界を変える人を育てるチャンスがある」と信じて、これからも「自分らしく」ボランティア活動を続けていくことを宣言し、講演の幕を閉じました。

国際土佐っ子メッセージ

今年で3回目となる中学・高校生を対象とした弁論大会「国際土佐っ子メッセージ」には15名の若い「国際土佐人」が自らの国際協力・国際交流に対する熱い思いを発表してくれました。それぞれが素晴らしい発表内容でしたが、次に挙げる皆さんが各賞を受賞されました。(敬称省略。学校名・学年はいずれも平成19年10月現在のものです。)大賞受賞者には副賞として、JAL高知支店から高知=東京間往復無料航空券が贈呈されました。

- 大賞：野村奈央(高知商業高等学校2年)
- 優秀賞：近藤健一朗(高知中央高等学校3年)
- 片岡綾香(いの町立伊野中学校3年)
- 審査員特別賞：中島匠一(高知市立大津中学校2年)
- 大場久美子賞：内田妃菜(高知中央高等学校3年)

ここでは、最も優れた発表をした野村奈央さんの発表文全文を掲載します。

「途上国の子ども笑顔を見たい」

私の夢は「保育士」になることだ。私は考えるときがある。世界のみなが幸せになるために、私ができることは何だろうか。

高校生の私に出来ることは本当に限られている。それは「世界の現状を知り、多くの人に伝えること。そして、今を生きること感謝をし、夢を叶えることだ。」

高校に入学し、国際理解の授業を通して、貧困が原因で1日に約2万5千人もの尊い命が失われている事実を知り、大きなショックを受けた。

そして、授業が進むにつれ途上国の様子が分かってきた。そこには紛争、飢餓、ストリートチルドレンといった現実があった。犠牲になる多くが幼い子どもや女性である事実も知った。この現実を信じられなかった。信じたくもない私がいた。

私はこの夏、東南アジアにあるラオスを訪問した。ラオスは内陸国で海を持たない。主要産業は農業、一人当たりの国民所得は約606ドル、最貧国の一つである。そこには貧困という問題があるのだろうか。

私が見たこの国には資料から想像するようなイメージはなかった。同じ途上国であっても地域により違いがあることが分かった。出会う子どもたちはみんながまっすぐな笑顔だった。

その時、何か嫌なことがあれば不機嫌になる自分の気持ちの弱さに気が付いた。ラオスの子どもたちは私たちを心から歓迎してくれ、旅の無事を祈ってくれた。豊かさがあった。

物質的な豊かさは私たちより、はるかに小さいが、ラオスの子どもたちの心の豊かさを肌で感じる事ができた。



野村奈央さん

以前、本でアフリカを自転車で一人旅をする内容のエッセイを読んだことがある。著者が食事に困っていると、誰と無く現われ、彼らは自分たちの貴重な夕食を分けてくれたそうだ。途上国にはこのような豊かさがあることに気付いた。

一方、日本では子どもの犯罪やイジメなどが毎日のようにニュースに取り上げられている。悲しさを感じる。心の豊かさはどこにいったのだろうか。

『「物」と「心」の豊かさは相反するものなのだろうか。いったい、この関連はどうなっているのだろうか。』と考えたとき、私は幼児期の環境が大きく影響していると考えた。つまり、家族との絆、感性を育てる時間、そういった豊かな家庭教育ではないだろうか。

私は「保育士」になりたいという夢を抱くようになった。そして、私は今まで軽くしか考えていなかった青年海外協力隊について、本気で隊員になりたいと思うようになった。協力隊には多くの職種がある。途上国で幼児教育に従事し、その国の状況を優先した、その国にあった幼児教育を試みたい。そして、真の豊かさを学びたい。今ある笑顔に「教育」を加え、更に豊かな笑顔にしたい。教育を受けることが出来ない子どもたちの力になりたい。

私は同じひとりの人間として、途上国の子どもたちと向きあいたい。

また、先進国の子どもたちに、途上国の子どものようなまっすぐな笑顔を持ってもらいたい。その為に、私はまず「保育士になる」という夢を叶えるために一歩を踏み出す。世界中を「笑顔」でいっぱいにするために。

その他の催し物

今回もチャリティを目的とした開発途上国の民芸品展示販売会や世界の料理を味わうワールドキッチン、JICA ボランティア体験談&募集説明会、国際協力・交流活動パネル写真展など、各種催し物を通じて国際協力の大切さを理解していただけるよう、参加団体や事業ボランティアの協力を得ながら実施しました。来場者のアンケートでは、ワールドキッチンや呈茶に人気が集まりました。

20年度も国際協力に対する理解を深めるイベントをJICA 四国や出展団体、ボランティアの方とともに作り上げていきたいと思います。



ワールドキッチン（フィリピン）

共催団体、協賛団体、参加団体の紹介

共催団体：JICA 四国（独立行政法人国際協力機構四国支部）

協賛団体：JAL 高知支店（株式会社日本航空インターナショナル高知支店）

参加団体：13 団体

特定非営利活動法人アジア文化交流会、国際ソロプチミスト高知、高知県 AALA 連帯委員会、安徽省日中友好の森づくりネットワーク、高知 SGG 善意通訳クラブ、高知県南米移住家族会、グアテマラ生産者支援ネットワークみるば、アジア僻地医療を支援する会、Brain、アフリカの雫、R.D. コンゴ子供基金、JICA 四国、高知県国際交流協会

Letters from abroad

氏名：国沢あや
派遣国：サモア

職種：小学校教諭
隊次：18年度1次隊



同僚と（中央が筆者）

初めまして、JICAボランティアの国沢あやと申します。
平成18年6月にサモアに派遣され小学校教諭をしています。

サモアは南太平洋に浮かぶ小さな国です。日本でいうと、鳥取県と同じくらいの広さで、大小9つの島からできています。「～サモアの島、常夏だよ～」と歌にもあるように、1年中夏の気候で、花も海も空も色鮮やかです。また、南十字星や天の川も夜空に美しく輝きます。私が住んでいるウポル島は、首都から少し郊外に出ると見られるココナッツのプランテーションに、島全体が覆われています。

私は、今、首都アピア市で、パイメア小学校に勤務しています。パイメア小学校はサモアで一番大きな小学校で、児童は約1000人です。教員は自分を含めて23名です。学年はYear1（5歳）からYear8（12歳）まであります。私はYear8の子どもたちに算数と理科を教えています。サモアの公立のほとんどの学校は建物も古く、全学級に机や椅子も充分ではないので、床に座って学習することも多いです。教科書も1人1冊もないので、学校で保管しているものをみんなで見て勉強します。

サモアではサモア語の他に公用語として英語が使われていて、小学校でもYear7から英語で書かれた教科書になり、英語で授業やテストが行われます。子どもたちは学校が大好きで、休み時間や放課後も、九九を聞いてもらうために私の所にやってきます。子どもたちは歌と踊りが大好きで、いつも明るく挨拶してくれます。日本語を聞きに来てはそれを早速使って「おはようございます」と声をかけてくる子どももたくさんいます。



ナイフも上手

サモアは子どもの数が多く、大家族で暮らしています。子どもたちは家に帰ると、家事の手伝いをします。屋外での炊事には慣れていて、火を熾すことやナイフを使うことは日本の大人より上手なくらいです。毎日の食事のほか、ウムといわれる日曜日の昼食に作られる石焼き蒸し料理でも大活躍します。学校の作業日には、大きなナイフを振りながら、要領よく草を刈っていく姿に感心させられます。

私の任期も残り少なくなりましたが、教師不足のサモアの小学校で、少しでも学校や同僚の力になれるよう、頑張りたいと思います。



授業の様子

さらば 高知

高知県国際交流員 宋 璐

07年4月に来高し、高知県国際交流員として活躍され、
08年3月に帰国されます宋璐さんからのメッセージです。

「光陰矢の如し」。国際交流員としての一年間契約がまもなく満了する。この一年間を過ごした高知という所は、わたしにとってどんな所だろう。

高知に来たのは春だった。「まだ慣れてないかなぁ」と私のことを心配してくれて、職場の仲間たちによく食事などに誘ってもらった。一緒にお昼の弁当を食べながら、世間話をしてすぐ親しくなった。

桜の花が散るころ、すこし高知の町にも慣れてきた。他の交流員と一緒に日曜市に行って、元気なお婆ちゃんとお爺ちゃんに出会い、優しい笑顔を見て、野菜も花もどンドンほしくなった。帰りは勿論、ひろめ市場で大好物のカツオの塩たたきを頼んだ。寂しかった週末も、このように楽しく、美味しくなってきた。

いよいよ春が終わり、南国ならではの夏を迎えた。この季節に家族の来日を迎えた。よさこい祭りで燃えた高知の町をみて、みんな強烈な印象を受けた。「私も踊るよ」と聞いて「こんな暑いのに、大丈夫か」と、とても驚いた。実際に踊りだすと、暑さも疲労も一切忘れて、音楽や踊りに夢中になった。その時のわたしは、「高知、大好きよ」と思った。

それから、大好きな秋がやってきた。親友のみなさんと一緒に、コスモスや紅葉狩りに行き、「日本最後の清流」の四万十川も訪れた。

いずれも言葉で言い表せないほど、綺麗だった。高知は、このような山も海も、清流もあるすばらしい所だよ、と中国の友達に紹介した。

イチヨウの葉が全部落ちると、冬になる。「忘年会」や「新年会」が行われ、町もさらに賑やかになる。商店街に立てられたゴージャスなクリスマスツリーをみて、日本は洋風化しているね、と実感した。けれど伝統でも洋風でも、商店街の人気を集めればいいなあ、と私も何時の間にか、県民の立場にたつて思っていた。そうだ、今のわたしは、「お客さん」ではなく、いつも「高知県民」の一人として、高知のことを思っているのだ。なぜならば、高知の皆さんはこの外国人の私を暖かく受け入れたから。日常の翻訳や通訳のほか、中国の文化を紹介してほしいとの学校や市民団体の要望に応じて、よくそちらに派遣される。その時、小学生からお年寄りまで、さまざまな



ポーズもばっちり！

高知県民と直接触れ合えるのだ。そして、中国の事を色々教えたり、一緒にゲームやクイズなどで遊んだりするうちに、さらに日本国民の真心を知り、両国友好の種をまくということの大切さが実感できた。

まもなく帰国するが、この一年間のすべての思い出を、一生忘れないだろう。高知の皆さん、どうか、幸せになってね。両国の友好の絆を、一緒に見守って行こうね。

さらば、みなさん！さらば、高知！

私と友人夫婦3人で細々と始めた「グアテマラ生産者支援ネットワーク『みるば』」も、活動を始めて7年になりました。主に活動を担っていた友人夫婦が仕事でホンジュラスに行くことになったため、現在は私が住んでいる高知県を中心に活動を続けています。

活動といっても、現在やっていることはグアテマラのマヤ民族の人たちが作った手織布を中心とした製品を仕入れ、イベントなどでたまに販売するだけ。人件費がない分、それなりに黒字です。さらに売上げも年々増加。皆さんに感謝しています。

商品はすべてフェアトレードと呼ばれる方法で仕入れられています。相手は「これだけ材料費と手間がかかったのでいくらで買ってください」と言い、私は「よくできているのでその値段で買しましょう」で、商談が成立します。私とマヤの人たちの間に支援する側とされる側という関係

はなく、お互いを尊重した商売をするというこの国際協力は、私が2年間、青年海外協力隊としてグアテマラで活動したときに感じた違和感がまったくない支援の方法で、とても気に入っています。また、最近は現地で伝統の草木染めも復活しつつあり、織物文化の継承という面でも役立っていると思います。

これからも、マヤの人たちとともに、「良いものを作れば良い値段で売れる」という当たり前のことにやりがいを感じながら、地道に活動を続けていきたいと思っています。



サン・マルコスの工房を運営するピニシオ氏と機織の女性たち

「みるば」のホームページ <http://milpa.michikusa.jp/>

第12回 高知県文化環境功労者表彰受賞

高知市立高知商業高等学校生徒会
吉川浩史氏

高知県では、毎年、文化の振興及び環境保全等に功績があった個人又は団体を表彰しており、平成19年度は高知市立高知商業高等学校生徒会と吉川浩史氏が国際交流部門で受賞されました。

高知市立高知商業高等学校生徒会は、県内のNGO組織「高知ラオス会」を通じて、平成6年からラオスに学校を建設する国際協力活動を展開しており、同会の協力により6校の学校が建設されています。また、地元の商店街振興組合と連携して地域の活性化に貢献しているほか、近年ではラオスの伝統的な織物を利用した「エコバック」の製作を「フェアトレード」の仕組みで現地工場に委託するという画期的な方法を取り入れるなど、新しい形の国際協力活動を展開し、本県の国際交流・国際協力の推進に大きく寄与しています。



表彰式にて(左から2人目:竹下明華・前生徒会長、左から3人目:吉川浩史氏)

吉川浩史氏は、本県と姉妹提携をしているフィリピン・ベンゲット州双方の農業発展に寄与しようと、同州からの農業研修生・実習生の受

入を積極的に推進し、平成9年からこれまでに100名を超える研修生の受け入れに尽力されてきました。

また、高知県・ベンゲット州姉妹交流推進会議副会長、同会長、高知県協力隊を育てる会会長、高知県外国人研修生受入組合連絡協議会会長などの要職を務め、本県の国際交流・国際協力の推進に大きく寄与しています。

INFORMATION BOARD

K I A 「20年度前半の実施予定事業の紹介」

(8月までの主な事業)



ジュニア国際大学【県内小学生高学年(小学4～6年生)対象、6月28日実施予定。】
遊びやゲーム等を通じて世界を学習し国際理解を深める。



国際ボランティア入門講座(18歳以上の県民で社会人を対象、4月18日・19日実施。)
国際ボランティアとは何か?活動のタイプから制度、条件、応募方法などを初心者に分かりやすく説明する。



災害時語学サポーター養成講座(18歳以上の県民を対象、6月から7月の土日に開催予定。)
大規模災害発生時に外国人を言葉の面で支援する語学ボランティアを養成。



日本語ボランティア講師養成講座

(5月～7月実施予定。)

初心者を対象とした初級コースを高知会場(5月10日、17日、24日、31日)と、幡多会場(6月7日、14日、21日、7月5日)で開催。



異文化理解講座(18歳以上の県民を対象、6月実施予定。)

在住外国人による母国の社会情勢・文化等を日本語でわかりやすく紹介する。

申込方法等詳細については、事業開始日1ヶ月前くらいから当協会HP・メルマガ等でお知らせします。

K I Aメルマガ好評配信中!

2007年9月に開設した当協会メールマガジン(K I Aメルマガ)は、おかげさまで少しずつですが購読者が増やし、県内の国際交流・協力、多文化共生に関する有用な情報受信ツールになっています。基本的に月1回(毎月1日)発行しています。メルマガに載せる情報も随時募集しています! お気軽にお問い合わせください。

メルマガへのご登録は <http://www.kochi-kia.or.jp/mailmagazine/index.html> からどうぞ。

GENKI青年会の取り組み

代表 マット・ダグラス

国際交流とは何でしょうか。人と文化とふれあってそれを理解し、尊重すべきところを尊重し、受け入れ難いところを話し合っって違いを認め合うことが国際交流の意義といえるでしょう。しかし、一般的に国際交流はもっと表面的な段階で留まるきらいがあります。特に日本では英会話になりがちですね。もちろん言葉を分かることは国際交流の基盤となっているんですが、その段階で滞ったらもったいない感じがします。もうちょっと深いところまで掘り下げると、異文化と触れ合う意味合いが増すに違いありません。

今年の土佐弁ミュージカルは『お龍の恋愛八策』やき!

もっと深いところを狙っているのはGENKI青年会です。県内在住の外国人を中心としたボランティア団体で、毎年色んなイベントを開催しています。一番知名度が高いのは「土佐弁ミュージカル」です。日本の話と海外の話を混ぜて、文化と文化のふれあいを象徴するストーリーを自分達で作ります。今年の演劇は、龍馬の妻お龍さんの話とシェクスピアの名作『空騒ぎ』を結びつけたストーリーとなりました。空騒ぎの主人公のベネディックとベアトリスはもともと犬猿の仲だけど、偽話で恋に導かれる話です。ミュージカルにおいて仲人となるのはお龍さんです。それに犬猿の仲の二人は薩摩の男と長州の女で、この二人の仲直りを皮切りに、龍馬は薩長同盟を促進することが出来るようになります。なかなか複雑そうな話ですが、ギャグ満載の大爆笑の演劇をお楽しみください。開催日と会場は次のとおり予定しています。



ちょびっとJAPAN映像祭(ブログ「高知のモノ・コト・ヒトカタログ」より転載)

4月12日: 田野町

4月13日: 室戸市・香南市野市町・土佐町

4月19日: 宿毛市・四万十町窪川

4月20日: 梶原町・土佐市・高知市高知追手前高等学校

『ちょびっとJAPAN映像祭』もやるぜよ!

GENKI青年会はミュージカル以外に、『ちょびっとJAPAN映像祭』もしています。去年の12月8日に香南市赤岡町の弁天座でショート・フィルム・フェスティバルを開催し、200人以上の観客に見てもらいました。映像作品の半分以上は外国人が投稿し、「高知の中のJAPAN」をテーマとしたものでした。普通に平凡と思われる高知のものも、外国人達の目には新鮮で素晴らしく映り、刺激的な作品が作れたと思います。高知には様々な伝統や良さがあって、このフィルムを見て、県民にその良さを再発見してもらえたらいいと思っています。今年も開催する予定です。

GENKI青年会は有意義な文化と文化のふれあいを促進し、高知に元気を与えるようなイベントをこれからも企画したいと思っています。